

平成17年の別府港海岸整備事業を振り返って

北浜地区2の整備基本計画（案）を策定し、今回のシンポジウムを開催したところで、平成17年度の別府港海岸の整備計画策定の取り組みは一応終了します。

今回のシンポジウムは、別府港海岸整備事業の取り組みを広く皆様に知っていただくことも目的の一つでありましたが、別府湾岸全体の取り組みを通じて、今後の課題についても共通認識が持てたものと考えています。すなわち、国、県、市の各事業主体がそれぞれの分野で取り組んでいる事業をどのように連携させ、利用していくのか。車座会議では、さまざまな提言も出されましたが、これらを実行し、別府湾岸から始まる地域づくりを実現すべく、課題の解決に官民一体となって継続的に取り組んでいくことが必要です。

別府港海岸整備事業では来年度も引き続き、北浜地区2において今年度策定した整備基本計画（案）をもとに、水理模型実験などによる護岸構造の細部検討や、背後地を含めた景観検討を行い、設計段階の検討を行い、整備基本計画を策定する予定です。別府港湾・空港整備事務所は、市民の皆様をはじめ、専門家、行政関係者で意見交換を重ね、よりよい北浜地区、ひいては魅力的な別府港海岸の形成を目指して参ります。シンポジウムに参加していただいた皆様、北浜地区2の整備基本計画（案）の策定にあたって、ワークショップなどに参加していただいた皆様、ありがとうございました。そして、今後ともご協力よろしくお願い致します。

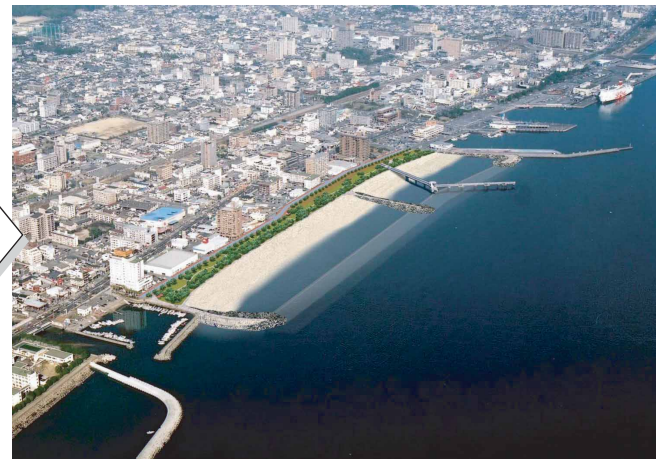
お知らせ

国土交通省九州地方整備局 別府港湾・空港整備事務所では、別府港海岸の上人ヶ浜地区、餅ヶ浜地区、北浜地区の3地区で、高潮対策事業を進めています。餅ヶ浜地区では平成16年6月より、潜堤を皮切りに工事を始めました。また、北浜地区2については、この2カ年にわたり市民の方々の参加によるワークショップ及び幹事会・委員会の検討を経て整備基本計画（案）がまとまりました。平成18年度からは、北浜地区2の設計段階の検討を行います。

餅ヶ浜地区



餅ヶ浜地区では南側突堤、潜堤、護岸の工事が進められています。



将来は緑に包まれた砂浜になります。

北浜地区2



北浜地区2の護岸は、現在テトラポットで覆われています。景観上の改善も望まれています。



北浜地区2では急深な地形を考慮し、背後の市街地に調和した都市型の海岸整備を行います。

別府里浜づくり新聞

第13号
平成17年
12月19日

「別府湾岸を考えるシンポジウム」を開催しました。

国土交通省九州地方整備局別府港湾空港整備事務所・大分県・別府市共催、NPO大分ウォーターフロント研究会の協力により「別府湾岸を考えるシンポジウム」を、11月27日（日）別府市の杉乃井ホテルで開催しました。

約300人の市民の皆様に参加していただき、別府港海岸整備事業や別大国道の拡幅整備などで大きく変貌しようとする西大分から関の江までを中心とした別府湾岸の地域づくりをテーマに、約3時間半、湾岸の将来像を話し合いました。

現状報告

はじめに、国土交通省九州地方整備局の港湾空港部長である戸田和彦より開会の挨拶を述べ、その後浜田博別府市長に挨拶していただいた後、現在、国、県、市及びNPO大分ウォーターフロント研究会が別府湾岸で進めている様々な取り組みについて、その現状を報告しました。

まず、「別府港海岸里浜づくりの取り組み」として、国土交通省九州地方整備局別府港湾空港整備事務所の尾坐所長が、別府港海岸整備事業の概要を説明しました。別府港の3地区において、海岸施設の防護機能確保を目的に、平成13年度に高潮対策事業が採択された後、防災を第一義としながらも、それぞれの地域の特徴を生かし、利用や景観、環境に配慮した「里浜」を目指して、地域の人々と検討を行ってきたという経緯。また、その結果として、整備基本計画が固まり、現地着工している餅ヶ浜地区、整備基本計画（案）が取りまとめられている北浜地区2の整備イメージなどの検討成果を発表し、今後とも地域の役にたてるように努力していくことを報告しました。

続いて、「別大国道拡幅の取り組み」として、国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所の長太所長が説明しました。渋滞の緩和を主目的とした、全体7kmの別大国道（別大地区）の拡幅事業は、現在までに約8割が完成し、完全に解消とはいかないものの、渋滞の緩和に効果を上げていること、また、歩道においては、事故の発生時や急に具合が悪くなったときに、自分の位置を警察などに知らせる際の目安になるよう、歩道上に距離を表示するなどの工夫や、舗装や底のデザインなど快適な歩行空間となるように景観整備にも力を入れていることを報告しました。

また、「別府湾の利用と環境」として、大分県土木建築部港湾課の河野課長が、別府港の役割と課題、これに対して県が進めている西大分の緑地や別府港のマリーナ、関の江海岸の整備などの具体的な事業、さらに、こうした施設の有効利用と管理についての現状と将来計画を報告しました。現在の別府湾岸は産業を支える物流拠点としてはよく機能しているものの、憩いや賑わい空間としてはまだまだであるとして、今後は整備と活用と管理を環境に配慮しつつ行っていくことが重要であるとの提案がありました。

さらに、「西大分地区のみなとまちづくり」として、NPO大分ウォーターフロント研究会の早瀬常務理事から、この15年間にわたり研究会が実践してきた官民交流会議や「かんたん倶楽部」「かんたんサーカス」など、市民の力によるまちづくりの現状が紹介されました。さらに、景観や歴史、文化など、別府湾岸の宝物大切にしつつ、かつ現代にうまく調和させること、そして、来客はもちろん、主催者やスタッフも感動できることが地域づくりを成功させる秘訣であるとして、今後の提案も行われました。

最後に、「まちづくりとONSENツーリズム」として、別府市ONSENツーリズム局の安波局長が、別府市が世界を視野に入れて進めはじめた、ONSENツーリズムの考え方と実践例、また、まちづくり交付金を活用した別府駅周辺地区整備や鉄輪の再生などのハード整備と、一方でまちづくり団体を支援し、活動を活発化させるまちづくり支援事業などのソフト戦略により、「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを進めていくことを報告しました。

プログラム

1. 開会挨拶
2. 現状報告
 - ①「別府港海岸里浜づくりの取り組み」
 - ②「別大国道拡幅の取り組み」
 - ③「別府湾の利用と環境」
 - ④「西大分地区のみなとまちづくり」
 - ⑤「まちづくりとONSENツーリズム」
3. 車座会議
「生まれ変わる海岸線と地域づくり」
4. 閉会挨拶



現状報告の様子

車座会議：生まれ変わる海岸線と地域づくり

休憩を挟み、15時過ぎから約2時間、別府湾岸で様々な活動を繰り広げる7名の活動家と市、県、国の各行政の代表3名と、大分合同新聞社の森編集局長をコーディネーターに迎え、「生まれ変わる海岸線と地域づくり」をテーマに、車座会議を行いました。活動の現状から今後の地域づくりに向けたアイデアやヒントなどが出され、会場の参加者も交えた活発な意見交換が行われました。



尾田 智史氏



川崎 裕一氏



佐藤 祐子氏



菅 健一氏



橋本 均氏

NPOウオーターフロント研究会
メント協会代表

NPO大分ウオーターフロント研究会
専務理事

BEPPU PROJECT STAFF

NPO別府八湯トラスト代表理事

㈱マリナープレス社長

森：今日は別府湾岸でさまざまな実践活動をされている方々に集まっていた。そこで、人々と別府湾のかかわりを広げていくためのアイデアやヒント、また、これから地域づくりを進める上で行政と民間がそれぞれが果たすべき役割といった点について、皆さんが活動を通じて考えることを伺いたい。

元来海辺が持っている魅力を生かす

尾田：我々は、海岸を利用した自然体験、安全教育、環境学習などを実施している。10月には、上人ヶ浜の磯場を利用した子どもたちの自然体験教室を実施した。みんな磯遊びを満喫し、喜んでくれた。これは実施後のアンケート結果から出たことだが、子供たちはこのような水に親しむ活動に興味を示している。とくに磯の観察や、安全教育に、子供たちのニーズが高い。

一方、親水性の延長線上には安全管理が絶対必要である。現状のまま親水性を進めても、事故を誘発してしまう可能性がある。

村上：私は小さい頃から楠港の近くに住んでおり、子供ころは、何もなくても海に集まっていた。難しいことはなく、海は子供たちが自然に集まる場所だった。そういう場所なのに、どうして生かせないのか、不思議に思える。海辺は人が集まれば何かが見つかる場所なのだ。私は、そういう所で音楽をやることによって、来た人がついでに音を楽しむ、あの海辺に行けば音もある、というような取り組みをこの湾岸整備とともに少しずつ考えていきたい。

行政はハードを、市民は利用を

川崎：行政にはハードをきちんと作っていただきたい。最初に私たちが西大分で募金活動をして真剣にお金を集めたが、できたのはガス灯3本と小さな小屋が二つ。そのへんに限界がある。民間の役割は、整備された施設をどう利用していくのかということにある。

佐藤：昨年と今年、別府のスパビーチで夏にオープンカフェを企画・運営した。期間中は若い人たちが寄ってくれたり、明かりが灯っていることで安心して遊べたりできるような効果があったと思う。行政の方には、このようなイベントがやりやすいよう、使う人のことを考えて電気や水道の設備を整えていただきたい。

村上：海で音楽をやるには電気や音源など、必要なものがある。最低限のものを用意していただければ、耳を澄ませばいつでも音楽が聞こえてくるような場所がつかれると思う。つくったものを使ってくれ、ではなく、つくる前に使う側の意見を少し取り入れてもらえれば、より大きな可能性が生まれるだろう。

別府・大分間の連携を

菅：さまざまな事業報告を聞いて、いよいよ別府湾のヘソである別府の海岸が大事な地点になってきたと感じた。自信を深めたし、私たちがもっと頑張れと言われていた気がする。お隣のうみたまご、ウォーターフロント研究会のみなさんとの連携を深め、いい海岸づくりをしていきたい。そのために私たちまちづくりグループは、大いに協力したいと思う。

橋本：新しくできた別大国道を、サイクリングやウォーキング、ジョギングなども楽しめる、いわば大分と別府の観光連携のシンボルロードとして位置づけしていただきたい。今後その沿線では観光客と市民が一緒になって憩い安らぐ空間づくりを目指すことが重要だ。そのために、地域の人間が別大国道の認識を改める必要があるが、そこで簡単な二つのことを提案したい。一つは、新しく出来た別大国道にニックネームをつけたらどうかということ。明る

い未来、新しい別府湾を想像できる名前をつけたらどうかと思う。もう一つは、別府湾の夜景を観光の目玉に育てたらどうかということ。別大エリアでとくに素晴らしいと思うのは夜景である。

松村：別大国道は、大分一の幹線道路で、生活道路で、そして観光道路であると思う。海を取り入れた都市空間が今度新しく誕生したという意味でとても期待している。

一方で、別府湾を愛する人が集まり、湾岸の湾を一人ひとりの「ワン」として、岸は「願」の字を当てはめて「ワン願」みたいな思いが、これからここで花開いていく。かんたんの花みたいに開いていくんだという会議もぜひやってほしい。

指定管理者制度を活用して

菅：これからは指定管理者制度を活用し、民間に管理を委託する方向になると思う。しかし、ただゴミ処理費用を委託するだけでなく、そこを使った遊び方も含め、すべて委ねることが重要だ。一方、例えば北浜海岸では、後背地の旅館街の人たちがどれぐらいやる気になるかが重要である。近くに漁港もあるので、朝市での活用など、いろいろなグループが連携して管理できればいい。

行政と市民の役割

浜田：行政と民間、市民の具体的な役割分担としては、インフラを含めたハード整備は行政の役割、一方、整備された海岸線をどう活用するかは、市民の一定のモラルに基づいた積極的な考え方によるべきである。そして、整備された海岸線の保存は、官民一体となって、共通の意識のもとに取り組むことで、達成できるものである。

渡辺：われわれ役人は、いままで、こういう施設を作れば地域の人が喜んでくれるのではないかという思いでやってきた。しかし、今や一方通行のやり方では通用しなくなったと思う。広く皆さんの意見を聞きながら進めることが非常に大事である。一方、管理ということになると、海岸の事業は他の事業と大きく違う点がある。砂浜は、きちんと整備されればそのままずっと変わらない。施設がそのまま残るのであれば、行政でなくとも、市民の方の温かい気持ちで維持管理ができるのではないかと。

市民の意見を取り入れて整備を推進

戸田：今日は、地元の方々の生の意見を直接伺うことで、大変勉強になった。今行っている海岸整備事業では、計画段階から皆様の意見をなるべく取り入れるかたちでやってきたし、そういう方向でやっていくべきだろうと思っている。ただ、本来の海岸整備の目的を外すわけにもいかないし、予算の制約もある。まだまだ整備には時間がかかるので、管理等を含め、今後も意見交換をしながら、よりよい事業の進め方を勉強していきたい。

キーワード：交流と連携

森：今日の話から、私なりに別府湾活性化のキーワードを考えると、やはり「交流と連携」だと感じた。私たちににとっては毎日眺める別府湾の景色はありきたりの日常風景だが、県外、海外の方が来ると、こんな素晴らしい景色はみたことがない、大事にしなければいけない、ということを感じられる。

親水空間や癒しの空間として、あるいは交流の場、賑わいの場として、もっと別府湾岸を活用できる道があるのではないかと。行政と民間とがもっと連携を深めてやっていくことが、別府湾岸の活性化につながるのではないかと。



参加者からの意見

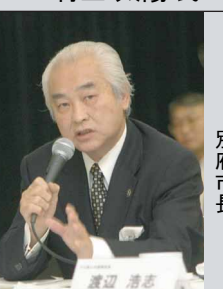
また、会場の参加者からは、「海岸整備や温泉まちづくりにあわせて、別府市は景観整備に取り組んでほしい。」「皆さんの話に勇気づけられた。佐賀関から杵築までも視野に入れて別府湾岸の連携を図りたい。」「西大分と別府を結ぶサイクリングロードを整備してほしい。」といった発言がありました。



松村 紅実子氏



村上 太陽氏



浜田 博氏



戸田 和彦氏



渡辺 浩志氏



森 哲也氏

コーディネーター
大分合同新聞社
取締役編集局長